

道内空港活性化ビジョンの概要

— 人、物、そして空と大地を一つに —

はじめに

1 策定の趣旨

本道における航空輸送が果たす重要な役割を踏まえ、北海道の航空ネットワーク形成の考え方や、各空港のめざす姿とその実現に向けた方策などを明らかにする「道内空港活性化ビジョン」を策定する。

2 ビジョンの性格及び取組主体

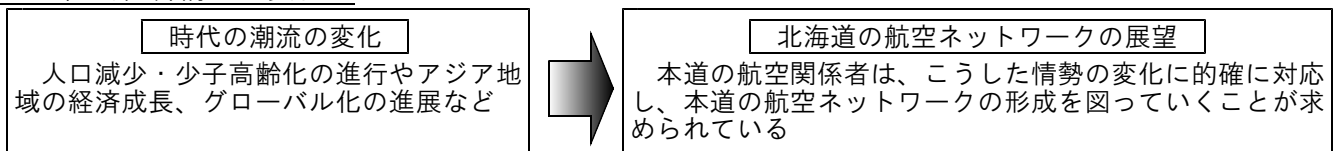
本道の航空政策に関する道の基本的な考え方を示すとともに、市町村や関係団体、地域住民など多くの主体がともに考え、ともに行動するための共通の指針とする。
(北海道交通ネットワーク総合ビジョン(H20.12策定)の部門別計画に位置付け)

3 目標期間

新・北海道総合計画及び北海道交通ネットワーク総合ビジョンの目標期間(平成20年度から概ね10年間)を基本とする。

第1章 時代の潮流と航空を取り巻く状況

1 社会経済構造の変化



2 航空を取り巻く状況

■ 道内空港の現状 ■

- 路線数は国際線、国内線ともに減少傾向
- 航空旅客需要は国際線、国内線ともに減少傾向、航空貨物需要は国内線が増加傾向

■ 航空会社の動向 ■

- 国内エアラインの経営状況は世界的な金融危機等の影響を受け、先行きが不透明
- 航空機材は中・小型化、低燃費化へ移行

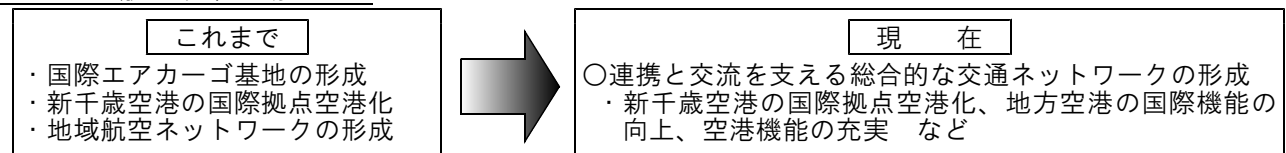
■ 国の航空政策の動向 ■

- 航空ネットワークの整備
 - アジア・ゲートウェイ構想に基づき、戦略的な国際航空ネットワークを構築
 - 空港政策の重点が「整備」から「運営」へシフト

●空港整備

- 大半の空港は赤字状態、現行の空港整備勘定は今後見直しの方向

■ 道の航空政策の動向 ■



■ 他の交通機関の整備状況 ■

- 幹線道路、新幹線などの整備の進展

本道の航空を取り巻く状況を踏まえると、道内の一部の空港においては、今後、そのあり方が問われるなどといった厳しい事態も想定される。そのため、地域の関係者がそれぞれの空港を取り巻く現実を十分認識し、危機感を持って、航空路線の維持・充実や空港の活性化に一層積極的に取り組むことが求められる

第2章 道内空港全体の将来展望

1 空港活性化に関する主な課題

■ 北海道の航空ネットワークの形成 ■

航空ネットワークの形成

北海道経済の活性化や道民生活の向上などを図ることができる航空ネットワークの形成が必要

航空需要

地域が一体となった利用促進の取組や、農水産物など道産品の取扱の増加など、航空需要の創出が必要

複数の地域や空港の連携

複数の地域や空港の連携による航空ネットワークの維持、空港の利用促進などへの取組が必要

■ 空港機能の強化等 ■

他の交通機関との連携

利用者利便の向上や多様な交通手段の選択肢の確保に向けた他の交通機関との連携が必要

交通アクセスの充実

航空機とアクセス交通との連絡の円滑化など、交通アクセスの充実に取り組むことが必要

利用者の利便性

空港利用者の多様なニーズに対応し、誰もが利用しやすい空港としての整備が必要

安全・安心・環境への対応

犯罪の未然防止や防災対策などの安全・安心の確保、空港周辺地域の環境への配慮が必要

■ 地域活性化等 ■

地域振興等

国内外からの観光客誘致や空港周辺地域への航空関連産業などの集積による経済の活性化や地域振興の促進を図ることが必要

地域との関わり

空港を地域住民の交流の場として活用するなど、地域住民が気軽に楽しめる空港づくりが必要

2 道内空港のめざす姿とその実現に向けて

次のめざす方向に基づき、北海道の航空ネットワークの形成や道内空港の活性化に向けた様々な取組を進めていく。

<めざす姿>

I 人と物の交流と安全・安心で快適な暮

らしを支える航空ネットワークの実現

- 国際・国内・道内航空ネットワークの形成
- 航空需要の創出
- 地域間・空港間の連携

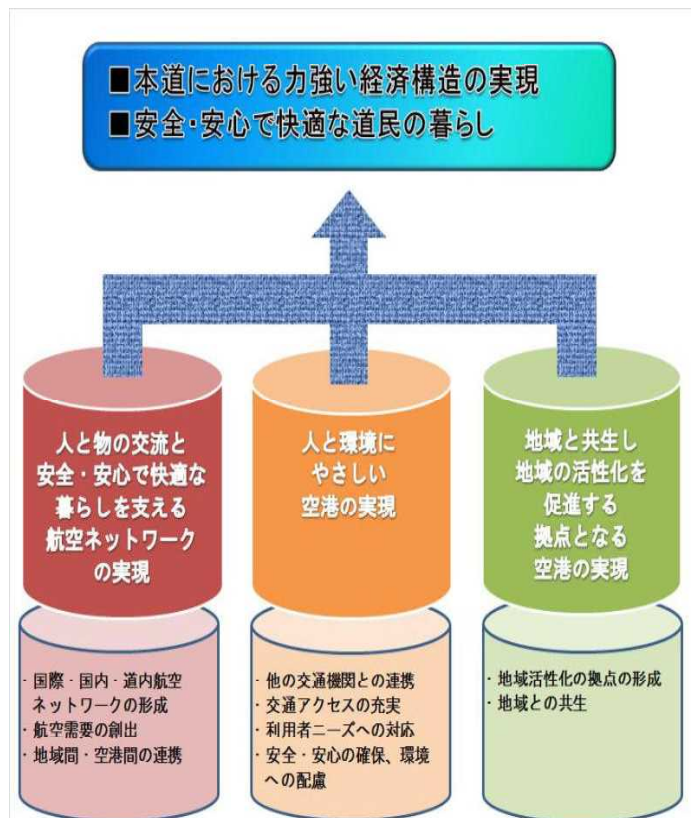
II 人と環境にやさしい空港の実現

- 他の交通機関との連携
- 交通アクセスの充実
- 利用者ニーズへの対応
- 安全・安心の確保、環境への配慮

III 地域と共生し地域の活性化を促進する

拠点となる空港の実現

- 地域活性化の拠点の形成
- 地域との共生



I 人と物の交流と安全・安心で快適な暮らしを支える航空ネットワークの実現

- 国際・国内・道内航空ネットワークの形成
 - 地域や関係団体が一体となった国際航空路線の誘致、拡充
 - 羽田空港との直行便の維持・拡充、道内主要都市を結ぶ路線の形成

<北海道の航空ネットワークの形成に当たっての基本的な考え方>

■ 北海道の航空ネットワーク ■

国際航空ネットワーク、国内航空ネットワーク、道内航空ネットワークの3つに区分

■ 当面の航空ネットワーク形成の考え方 ■

- 国内、道内航空ネットワークについては、現在の路線の維持に取り組む
- 国際航空ネットワークは、現在の路線の維持を図るとともに、交流拡大が期待される東アジア地域などを結ぶ新たな路線の開設や国際チャーター便の誘致に取り組む
- 新千歳空港又は羽田空港での乗り継ぎ便の利用促進に取り組む

■ 中長期的な航空ネットワーク形成の考え方 ■

- 今後の経済状況や他の交通機関の整備状況などを見極めながら、関係者が一体となって、関西圏などの運休路線の再開や増便、新規路線の開設に積極的に取り組む
- 新千歳空港については我が国における北の拠点空港、北海道の航空ネットワークの中核としての役割を一層果たしていけるよう、利便性の高いネットワークの充実に取り組む

<各航空ネットワーク形成の考え方>

- ◆国際航空ネットワーク:東アジア地域を中心とした国際航空路線の開設・充実や国際チャーター便の誘致等
- ◆国内航空ネットワーク:道内空港と国内主要都市間とを結ぶ路線の開設・拡充、道内路線の充実
- ◆道内航空ネットワーク:道内主要都市間を結ぶ路線や離島路線の維持・拡充

●航空需要の創出

- 効果的なプロモーション活動などによる観光客誘致や、新たなビジネス需要の創出
- 道民の国内外旅行需要の喚起
- 農水産品など道産品の取扱い増加による航空貨物需要の拡大・創出

●地域間・空港間連携

- 新千歳・丘珠、道東5空港、道北・オホーツク3空港、函館・奥尻・東北地方の各空港などにおける空港連携
- 就航先の地域と連携した観光需要の拡大、新たな交流の創出

II 人と環境にやさしい空港の実現

●他の交通機関との連携

- 道民の利便性向上、交通手段の選択肢確保のための連携強化

●交通アクセスの充実

- 利用者への的確な情報提供、円滑な移動の確保に向けた交通アクセスの充実

●利用者ニーズに応える空港

- 空港機能の向上、利用者ニーズに対応したソフト面の充実

●安全・安心で環境に配慮した空港

- 空港機能の高質化、十分な安全・安心の確保
- 環境にやさしい空港づくりの推進

III 地域と共生し地域の活性化を促進する拠点となる空港の実現

●地域の活性化の拠点となる空港

- 地域資源を活用した観光客の誘致・情報発信、空港の優位性を活かした産業の集積
- 自治体の総合計画や道の重点プロジェクトなどとの連携

●地域と共生する空港

- 住民との交流促進など、住民に身近な空港づくりの推進

第3章 道内各空港の将来展望

各空港を取り巻く課題(総括)		めざす姿とその実現に向けた主な対応方向
新千歳	<ul style="list-style-type: none"> ●本道経済の活性化を図るため、一層の人・物の交流の活発化が重要 ●深夜・早朝時間帯発着枠の拡大などの空港機能の充実や、航空路線の誘致・運休路線の再開などに向けた積極的な取組が必要 	◆我が国の北の拠点空港(国際拠点空港化)をめざして <ul style="list-style-type: none"> ○国際・国内・道内航空路線の維持・拡充、運休路線の再開 ○道内各空港と道外との中継点となる航空ネットワークの形成 ○地域や関係機関などと一体となった航空需要の拡大 ○深夜・早朝時間帯発着枠の拡大、乗り入れ制限の緩和
丘珠	<ul style="list-style-type: none"> ●A-net撤退や今後の北海道新幹線の札幌延伸に伴う利用者数の減少、空港ビルを含めた空港機能の低下などにより、将来的な空港のあり方への影響が懸念 ●他の交通機関との連携や交通アクセスの改善、HAC路線の維持、将来的な路線開設など利便性向上、旅客需要の拡大に向けた取組が必要 	◆札幌市と地方のビジネス需要や、高度医療など地方のニーズに応える空港をめざして <ul style="list-style-type: none"> ○HACが運航する路線の維持、将来的な新規路線の開設 ○ダイヤ設定や空港運用時間の延長など、利用者利便の向上 ○地域と一体となったビジネス需要の維持・拡充、新たな需要の創出 ○空港ビルを含めた空港機能の維持、交通アクセス向上
函館	<ul style="list-style-type: none"> ●北海道新幹線の開業・札幌延伸による首都圏からの観光需要の流出や、新千歳・丘珠路線の利用者の一層の減少が懸念 ●新幹線駅とのアクセス向上、奥尻空港や東北地方の空港との連携など積極的な取組が必要 	◆離島を含む道南連携地域の中核空港をめざして <ul style="list-style-type: none"> ○国際チャーター便の誘致、東アジア地域等との新たな路線開設 ○道内外の路線の維持・拡充、運休路線の再開 ○北海道新幹線の開業を視野に入れた他の交通機関との連携 ○新千歳空港の代替空港としての空港機能の確保
旭川	<ul style="list-style-type: none"> ●北海道縦貫自動車道の整備の進展による利用者の流出や、国際定期路線の運休などによる空港利用者の減少が懸念 ●地域の魅力を最大限に活用した旅客需要の創出に向けた積極的な取組が必要 	◆道北連携地域の中核空港をめざして <ul style="list-style-type: none"> ○国際チャーター便の誘致、東アジア地域等との新たな路線開設 ○道内外の路線の維持・拡充、運休路線の再開 ○新千歳空港の代替空港としての空港機能の確保
稚内	<ul style="list-style-type: none"> ●A-net撤退による利用者利便の低下や将来的な人口減少による利用者の一層の減少が懸念 ●離島を含めた地域の魅力発信、住民の旅行需要の創出に向けた積極的な取組などが必要 	◆離島を含む宗谷地域の経済・生活を支える空港をめざして <ul style="list-style-type: none"> ○羽田空港との直行便の維持 ○道内外の路線の充実、運休路線の再開 ○フェリーなど他の公共交通機関との連携強化
釧路	<ul style="list-style-type: none"> ●相次ぐ路線の休止によるネットワークの利便性低下や将来的な人口減少による利用者の一層の減少が懸念 ●利用促進に向け、地域のより一層積極的な取組、他の空港や地域との連携強化などが必要 	◆釧路・根室連携地域の中核空港をめざして <ul style="list-style-type: none"> ○国際チャーター便の誘致 ○羽田空港との直行便の維持 ○道内外の路線の維持・充実、運休路線の再開
帯広	<ul style="list-style-type: none"> ●北海道横断自動車道の整備の進展に伴う利用者の流出や路線の休止、国際チャーター便の激減などによる利用者の一層の減少が懸念 ●羽田路線のダブルトラッキング化など利便性の向上、地域の一層積極的な取組などが必要 	◆十勝連携地域の中核空港をめざして <ul style="list-style-type: none"> ○国際チャーター便の誘致 ○羽田路線のダブルトラッキング化の実現 ○道外路線の充実、運休路線の再開
女満別	<ul style="list-style-type: none"> ●国際チャーター便の激減や将来的な人口減少などによる利用者の一層の減少が懸念 ●地域の特色を活かした観光客誘致や住民の旅行需要の喚起に向けた地域の一層積極的な取組、他の空港・地域との連携が必要 	◆オホーツク連携地域の中核空港をめざして <ul style="list-style-type: none"> ○国際チャーター便の誘致 ○羽田空港との直行便の維持 ○道内外の路線の維持・充実、運休路線の再開
中標津	<ul style="list-style-type: none"> ●A-net撤退により、代替公共交通機関が十分でない当地域における医療やビジネス面への影響が懸念 ●空港機能の維持や利用者の増加に向け、地域の積極的な取組、他の空港・地域との連携が必要 	◆根室地域の経済・生活を支える空港をめざして <ul style="list-style-type: none"> ○羽田空港との直行便の維持 ○道内外の路線の維持・充実
紋別	<ul style="list-style-type: none"> ●旭川紋別自動車道などの整備の進展や将来的な人口減少などに伴う利用者の減少により、唯一の路線の維持、空港の運営が懸念 ●利用者の増加や空港機能の維持に向け、地域の積極的な取組、他の空港・地域との連携が必要 	◆紋別地域の経済・生活を支える空港をめざして <ul style="list-style-type: none"> ○羽田空港との直行便の維持・拡充 ○道内外の路線の充実、運休路線の再開
離島	<ul style="list-style-type: none"> ●過疎化や高齢化の進行、地域経済の低迷などによる利用者の一層の減少が懸念 ●生活の足の維持に向け、旅客需要の拡大が必要 	◆離島住民の生活を支える空港をめざして <ul style="list-style-type: none"> ○離島振興諸施策との連携による需要の喚起 ○離島路線の維持に向けた支援策の展開

第4章 ビジョンの推進に当たって

1 多様な主体との連携・協働

- 空港関係者が各空港の将来像を共有しながら、航空路線の維持・確保などに向け、多様な主体相互の密接な連携・協働のもと、様々な施策を効果的・効率的に展開
- ビジョンに沿った地域の取組に対し、道は積極的に支援
- 空港活性化に向けた積極的な提案・取組を地域に期待

2 ビジョンの推進管理

- 施策の推進状況について、定期的に点検・評価を行うとともに、その評価結果や社会経済情勢の変化、国の動向なども踏まえながら、必要に応じてビジョンの見直しを行う